



北海道東トレイル開通式



ワインの瓶詰め

誇りと活力あふれる 夢(まち)づくりを日指す

令和7年第1回町議会定例会が3月4日から7日まで開かれ、令和7年度予算案などが審議されました。
徳永町長が行った町政執行方針と、岩原教育長の教育行政方針の概要をお知らせします。



令和7年度町政執行方針 町長 徳永 哲雄

活気ある弟子屈町 を取り戻す

昨年12月から7期目の任期をスタートさせていただき、私が町政をお預かりして25年目を迎えます。これからの4年間をこれまでの政策の総仕上げと位置づけ、全力で取り組んでまいりますので、よろしくお願い申し上げます。
令和4年度からスタートした第6次弟子屈町総合計画は4年間の前期実行計画の最終年となります。前期の事業実績を点検、改善しつつ、まちづくりの基本目標を達成すべく後期実行計画を策定、各種事業を推進してまいります。
昨年からは長引く物価高騰や円安による日本経済の停滞、少子高齢化、人手不足など、依然として課題も多く、本町においても大きな

活 活力・活気・雇用を 生み出す夢(まち)づくり

基幹産業の更なる強化

- ▽橋梁長寿命化計画に基づく朝霧橋、下鐙別橋及び岡田橋の改修工事を実施。
- ▽住宅環境充実のため、新たに川湯駅前団地の建替事業に着手し1棟4戸を建設。緑団地でも引き続き1棟4戸を建設。
- ▽民間住宅の新築・リフォーム支援として、住宅建設促進事業及び民間賃貸住宅の建設・リフォームなどに対する支援を継続。
- ▽活用できる空き家の調査を継続、空き家バンクなどの活用を推進。
- ▽上水道事業、農業用水道について、管路の耐震化を継続。
- ▽温泉事業について、各源泉の湯湯管エアー管の入替、温泉利用者への安定給湯を推進。
- ▽下水道事業について、耐用年数を経過し老朽化した弟子屈浄化センターの設備更新、耐震補強、安定した汚水処理の推進。
- ▽下水道計画区域を除く地域での合併処理浄化槽設置費用の一部助成を継続。
- ▽バス停や路線から離れている、いわゆる交通空白地域にお住まいの方を対象に、玄関からスーパーまでの移動手段を確保する「買い物乗合ハイヤー」の実証運行。
- ▽道営草地畜産基盤整備事業弟子屈地区の圃場整備を継続。
- ▽国営総合農地防災事業による、圃場の機能回復のため、幹線明渠改修工事の着手。
- ▽馬鈴薯の病害虫対策、甜菜・そばの品質・生産性向上を図る畑作生産基盤強化事業や持続的畑作生産体系確立緊急支援事業の推進。
- ▽畜産・酪農の生産性・収益力強化を目的とした、和牛・乳牛の多種経営を推進し、生産基盤を強化。
- ▽弟子屈町農業担い手育成センターによる、就農に向けた研修から就後の経営指導など、ソフト・ハード一貫したサポートの実施、担い手の確保。
- ▽摩周メロン・摩周そば・摩周和牛の安定生産やブランド力強化、流通対策や販売促進。
- ▽老朽化した町農産物集出荷センター建て替えに向けた実施設計。
- ▽令和7年度から令和14年度まで実施する森林由来のカーボンクレジット創出に向けた「Jークレジット」に参加。
- ▽川湯温泉街の再整備のため、川湯温泉最大の特徴である街中を流れる温泉川を中心とした川湯広場の実施設計と湯けむりの景観と融合した川湯横丁の整備に支障となる川湯一の坊周辺の廃屋解体。

影響を受けております。
しかしながら、インバウンド需要の急回復による観光業の活発化や個人消費の回復傾向など明るい兆しも見えております。人口減少が進む中、次代を担う世代が本町に住み続けながら夢や希望を抱き、活躍できるまちづくりを実行してまいります。
観光につきましては、川湯温泉街の再生に向けて阿寒摩周国立公園満喫プロジェクトを進めるとともに、自然と共生する観光地としてさらなる魅力向上を目指してまいります。
また、中心市街地再構築事業では、昨年からの複合型地域観光交流拠点施設の敷地造成に着手いたしました。引き続き本体施設の建設に向けて準備を進めてまいります。
農業につきましては、新型コロナウイルスの感染拡大以降、待ち望まれていた新そば祭りの再開が決定いたしました。町外からも多くの来場者が訪れる集客力の高いイベントであり、大きな経済効果が期待されます。
基幹産業であります観光と農業をはじめ、地域経済を守るうえで大きな課題となっている担い手不足、労働力不足を解消するため、引き続き取り組みを進めてまいります。あわせて、移住定住の推進と雇用対策を包括的に進める仕組みを構築し、対策を強化してまいります。
これらの経済対策を行う一方で、子育て支援や医療福祉サービスの充実など、生活を豊かにする施策の継続は重要で欠かすことはできません。こどもの医療費や保育料の無償化、地域医療や高齢者福祉

環 人と自然が共生 する夢(まち)づくり

環境保全の推進

- ▽バイナリー発電設備の本格稼働と弟子屈小学校の温泉床暖房への2次利用。
- ▽地熱資源開発事業を行っている湯沼アトサヌプリ地区でのフラッシュ発電事業実施に向け今後の方針を検討。

生活環境の充実と向上

- ▽老朽化した消防救急デジタル無線基地局更新の継続、耐震性貯水槽の更新や消火栓の新設、衛星電話機や無人航空機の配備。
- ▽全国的に被害額が増加している特殊詐欺防止の啓発や町内での交通事故死事故対策、地域の防犯対策や消費生活の安全を確保。
- ▽人口減少や少子高齢化による墓や納骨堂の継承管理が困難な方のための「合葬墓」運用開始。
- ▽中心市街地再構築事業として、中心市街地地域交流拠点複合施設建設準備。
- ▽中心市街地の大型廃屋ホテル2棟の解体に向けた調査設計。

環境と共生する基盤の整備

- ▽予防を推進。
自殺者減少のため「いのちを支える弟子屈町自殺対策計画」に基づき、メンタルヘルス講演会や自殺予防ゲートキーパーを養成。
- ▽地域医療を守るため、MRIやCTをはじめ老朽化した設備や医療機器の更新など、中核となる摩周厚生病院への支援を継続。
- ▽摩周厚生病院と連携した医療従事者の確保。
- ▽新型コロナウイルス感染症ワクチン接種への助成。
- ▽生後1〜5歳までの乳幼児対象の「おたふくかぜ」や50歳以上が対象の「带状疱疹ワクチン」の予防接種費用などの一部の助成、各予防接種の勧奨を継続。

子育て・福祉環境の充実

- ▽地域全体で支え合いながら暮らしができるよう、各種団体や地域住民とともに、支え合い体制の充実と人材の確保、育成に努め、円滑に福祉サービスが提供できる環境づくりを推進。
- ▽生活困窮者やひとり暮らしの高齢者などが、自立し安定した生活が送れるよう支援を実施。
- ▽屈斜路古丹生活館の4月からの供用開始。
- ▽「子ども子育て支援事業計画」に基づくより充実させた子育て支援の推進。
- ▽妊婦の不安解消を図るため、産前、産後ケア事業と産前、産後サポート事業を継続し伴奏型相談支援を強化。
- ▽赤ちゃんすくすく応援券交付事業を継続。
- ▽医療機関窓口負担0円とする「こども医療費無償化」を実施。

暮 誰もが安心して 暮らせる夢(まち)づくり

健康づくりの推進と医療の充実

- ▽「元気でしかが21」を基本に、特定健診や各種がん検診の受診率向上を推進。
- ▽若年世代の健診受診の定着化に向けた特定健診や満40歳特定健診無料クーポン券交付など、生活習慣病を早期に発見、重症化

「豊かな心を育て文化を大切に にする夢(まち)づくり」を



令和7年度 教育行政方針
教育長 岩原 勝行

近年、少子高齢化に加え、感染症の発生や気候変動など国内外の社会・経済情勢が目まぐるしく変化しております。

学校教育分野では、デジタル化の急速な進展のもと、ICT教育の推進によりデジタルリテラシーを高め、未来の社会で活躍できる人材の育成や、タブレット端末を活用した授業の充実がより一層求められております。

社会教育分野では、子どもから老年寄りまで誰もが気軽に参加でき、潤いに満ちた生活が送れるような、生涯学習の推進と地域文化の継承が益々重要となっております。

本町の教育目標である「学校、家庭、地域社会が連携し、ふるさとを創る人を育む」を実現するため、「第6次弟子屈町総合計画」に掲げる、「豊かな心を育て、文化を大切にする夢(まち)づくり」を目指し、第3次弟子屈町教育推進基本計画に沿

①信頼される学校づくりの推進

▶ ホームページや学校だよりを活用した情報発信の継続。

▶ コミュニティ・スクールでは、学校評価を通じ保護者や地域の方々の意見に耳を傾け、教育活動の充実を推進。

▶ 特認校・美留和小学校における個々の特性に応じたきめ細かい対応によるニーズの増加。

▶ 弟子屈中学校での地域協力者向け「TEICHU・SPACE」開設などによる新たな取組みを通じ、信頼される学校づくりや地域とともにある学校の実現。

生きる力を育む 学校教育の充実

学び環境の充実

本町の未来を担う子どもたちが、急速なグローバル化の進展やSociety 5.0時代の到来などを見据え、たくましく生き抜き自己実現に向けて挑戦できるよう、自ら考え判断し、表現できる力を育むことが求められております。

その実現に向け、子どもたち一人ひとりが「持続可能な社会の創り手」として、自分の良さや可能性を信じ、多様な人々を尊重し協働することで社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓いていけるよう、安心して学べる環境づくりを全力で推進してまいります。

②確かな学力のかん養と 情報化教育の強化

▶ 確かな学力のかん養と情報化教育への対応が重要。

▶ 「全国学力・学習状況調査」や「弟子屈町学力調査」を分析し、学力向上に向けた子どもが学びの主体となる授業改善。

▶ 英語力向上に向け、玉川大学との更なる連携の推進。

▶ 大学生による各小中学校での英語の授業実践の拡充による、子どもたちの外国語コミュニケーションへの興味関心の向上。

▶ 英語教育に関わる教職員向けの研修会の実施と教職員の授業力向上。

③心身の健康づくり

▶ 心身共に健康な生活を送るために、必要な情報を自ら収集し、適切な意思決定を行うことができる力の育成。

▶ 学校や家庭、地域が連携・協働した健康づくりの取り組み。

▶ 児童生徒の健康増進について、フッ化物洗口の全小中学校での実施を目指し、児童生徒の歯や口腔の健康づくりを推進。

▶ 体力づくりについては、「新体力テスト」の継続的な実施による児童生徒の体力状況の把握と授業改善。

▶ 課題のあった項目について再度「新体力テスト」を実施し検証改善サイクルを確立、体力の向上。

▶ いじめの対応について、学校におけるいじめ根絶に向けた取り組みや「いじめ撲滅サミット」改め「未来子ども会議」の実施。



弟子屈高等学校生徒全国募集「地域みらい留学説明会」



川湯保育園の新園舎

▽ 保育園や認定こども園の保育料と副食費を完全無償化。

▽ 川湯保育園について、はだし保育による健康的なからだづくりの実践と保育士の増員。

▽ 認定こども園ましゅうについて、園舎とにりに移転する子育て支援センターの別棟建設工事にあわせて渡り廊下で接続、別棟の保育室兼午睡室とトイレを利用可能とし、待機児童解消に向けた準備と保育士確保への支援。

▽ 子育て支援センターについて、保健師、保育士と連携し、さまざまな環境変化による孤立や不安を抱える世帯への積極的な訪問、育児不安のリスク解消のため「子育ての輪を広げる」取り組みを推進。

▽ 放課後児童クラブについて、支援員の研修の充実、学校との連携を強化。

▽ 「子どもの居場所づくり推進事業」によるこども食堂などへの支援を継続。

▽ 児童虐待事案について、関係機関との連携を密にし、痛ましい事案発生を未然に防止。

▽ 高齢者の生活全般の包括的に継続的な支援を行う地域包括ケアシステムを推進。

▽ 高齢者の総合相談支援体制の充実と支えあい活動への支援継続。

育 豊かな心を育て、 文化を大切に

学び環境の充実

▽ 生きる力を育む学校教育の充実を図るため、タブレットを活用した情報化教育と個別最適な学び、体力の増進と健康づくり、ふるさと学習の充実など、学校と地域が一緒になって子どもたちを支える教育を推進。

▽ 全国から弟子屈高等学校の生徒を募集する「地域みらい留学」制度を活用、地域が学校を支えるコミュニティ・スクールを活性化。

▽ 小中学校の普通教室や職員室へのエアカン設置を継続。

▽ 生涯学習の推進と文化の継承

▽ 循環型生涯学習社会の形成のため、社会教育事業と公民館事業を一体的に展開、町民の学習意欲を喚起し、その成果を地域課題解決に還元するよう推進。

人 行動する人を育 てる夢づくり

協働の推進

▽ 地域づくりに必要とする人材を町外から募る「地域おこし協力隊」など様々な制度を活用、定住までを見据えた活動支援を継続。

▽ 移住者や関係人口の増加に向け町内外でつながったネットワークを活用した積極的な情報発信。

▽ 交流の推進

▽ 住民が主役のまちづくりの実現に向け、自治会活動や地域コミュニティ施設の活用を支援。

▽ 鹿児島県日置市との姉妹都市交流では、町民ツアーによる日置市訪問や新そば祭り会場での物産展開催を予定しており、相互交流の推進を継続。

公 誰でも参加する ことができる

安定した行財政運営

▽ 町税の適切な課税、電子申告やキャッシュレス納付など、さらなる納税者の利便性向上。

▽ 効果的な滞納整理による公平な税負担の実現。自主財源である税収の確保。

▽ ふるさと納税の返礼品の充実と、寄付者への情報発信。

▽ 住民と行政の新たな
架け橋づくり

▽ 広報てしかが、町公式ホームページ充実のため広報モニター制度を継続。

▽ マイナンバーカードを基にした、行政手続きのオンライン化、各種証明書のコンビニ交付などを継続、利用者目線に立った住民サービスを提供するためのデジタル・ガバメントを推進。

子ども自身がはじめに向き合い、根絶に向けた取組みを更に推し進め、子どもが悩みを相談できる環境づくりの推進。

不登校児童生徒は減少傾向にあり、毎月の各学校への調査や幼小連携・小中連携を更に進め、未然防止と適切な支援を実施。

④ふるさと学習の推進

子どもたちが身近な地域の魅力や課題などを知り、地域社会の一員として愛着や誇りを持てるふるさと教育の充実を推進。

探究的な学びの更なる充実を図るため、新たに「総合的・探究的な学習実行委員会」を組織。

各小中学校や弟子屈高校の学習内容の共有・整理を推し進め、各学校が主体的に地域素材を生かした「弟子屈探究」の構築に向けた支援。

姉妹都市中学生交流事業での本年8月に鹿児島県日置市派遣団を受入れ、双方の中学生の再会と交流の実施。

⑤特別支援教育の充実

特別な支援が必要な子どもたちが切れ目のない支援を受けられるよう、関係機関との効果的な連携体制を構築。

教育環境の整備・充実を図り、一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援体制を整備。

「特別支援教育推進会議」を通じ、各小中学校と弟子屈高校の特別支援教育コーディネーターや、子ども発達支援センター、川湯保育園、認定こども園ましゅう、町の保健師など関係機関との連携を強化、情報共有や研修会の実施。

幼小連携の一層の充実を図るため、架け橋期のプログラムの整備。

⑥高等学校への支援

新入学生の確保・募集について「地域みらい留学」による都市部を中心とした全国募集活動を実施し、安心して生活できる受入れ体制等の整備。

地元中学生の弟子屈高校への進学率向上へ向け、コミュニティ・スクールやコーディネーターとの連携を強化し、高校の「魅力ある学校づくり」と「学力向上と人材育成」の実現に向けた支援。

高校へ通う生徒の保護者負担の軽減のため、給食の無償提供、交通費の助成のほか、タブレット端末の購入にかかる入学祝い金などの支援を実施。

公設民営塾については、保護者と高校との連携をさらに深め、一人ひとりの可能性を広げるために「弟子屈高校流の大学進学や各種就職などを果たせる学習環境」を継続。

⑦教職員のスキルアップと働き方改革の推進

教員自身の資質能力の向上に努め、フィールドワーク研修や初任段階教員を対象とした研修を行い、教職員の資質・能力を向上。

小中学校の自主公開研究会の開催を通して、互いに授業を見合うことを習慣化し、自身の授業実践の振り返りに繋げるなど、教職員の授業力向上を推進。

各小中学校教職員の業務負担軽減を図るため、定時退勤日の設定や学校行事の見直し・精選、勤務状況の公表や分析を実施。

中学校部活動の地域移行について、町内の学校関係機関、スポーツ・文化団体や少年団で組織する「町立中学校部活動の地域移行に関する検討協議会」で引き続き協議し、試行モデルとして、一部の部活動において、外部団体による土日の部活動指導を実施。

学校教育環境の充実

①学校教育環境の整備

各小中学校の普通教室や職員室などにエアコンの整備を実施。

学校施設の大規模な改修について、「美留和小学校校舎屋根防水改修工事」や「川湯中学校特別教室等LED化工事」など計画的な実施。

タブレット端末の機器更新について、北海道および市町村が参加する共同調達において整備。

少子化に伴う人口減少から、義務教育学校設置や小中学校の統合など、さまざまな選択肢の中で検討。

②通学体制の確保

登下校時の交通指導員や子どもサポーター隊などによる、地域ぐるみの児童生徒の安全対策として継続できる体制を支援。

通学路危険箇所等の安全確保に向け、警察や道路管理者などと連携を継続。

スクールバスの運行について、運行路線の工夫改善を図るなど、利用する子どもたちの安全で安心な運行の実施。

③教職員住宅の整備

教職員住宅について、住環境の改善を図るため、合併浄化槽の設置やトイレの改修など、引き続き計画的な整備。

老朽化が著しい住宅について、計画的な売却や解体を実施。

④保護者負担の軽減

学校に必要な費用の負担が困難な家庭に対し、学用品やPTA会費など教育費のサポート（援助）の実施。

新入学児童生徒学用品費を入学前支給する就学援助制度や入学祝いの実施など、持続可能な子どもの学びの環境づくりの継続。

小中学校の教育活動に係る学校教材費の全家庭の保護者軽減を継続。

弟子屈の未来を創る全ての児童生徒を育むため、子どもの学びを支える子育て支援を継続。

⑤学校給食の充実

栄養教諭や町の管理栄養士などによる食の大切さや食文化などを伝える食育指導や調理実習等の充実。

高校生までの給食の無償提供を継続。

「ふるさと給食月間」を設定し、地場産品への理解が進むよう食に対する関心と地元愛が深まる取り組みを実施。



摩周和牛を使用したハヤシライス

生涯学習の推進と

文化の継承

活力ある地域社会の形成には、地域に根差した「調和と協調」に基づくウェルビーイングの向上が重要であり、生涯学習による持続的なつながりや関わりの創出が求められています。

その実現のため、最終年度を迎える「第8次弟子屈町社会教育中期計画」の評価を行うとともに、地域コミュニティの維持・活性化や地域教育力の向上に向けた次期計画の策定に取り組んでまいります。

生涯学習のまちづくり

①生涯学習推進体制の強化

長寿化が進展する現代において、いくつになっても生きがいをもつて充実した人生を過ごすことができるよう「生きがい講座」を開設。

②公民館の施設整備と活動の充実

公民館は学習拠点だけではなく避難場所としても重要な役割があるため、老朽改修や空調設備を整備し利用環境を改善。

「つどう」、「まなぶ」、「むすぶ」という公民館の役割が発揮されるようさまざまなジャンルの公民館講座を開催。



公民館講座でSUP体験

③図書館施設の活用と充実

子どもの読書活動の推進のため「第4次弟子屈町子ども読書活動推進計画」を策定。

図書館システムや図書館バスの更新を行うとともに、地域活性化起業人制度による専門知識を有した人材を受け入れ、円滑な移行が図られるよう準備。

青少年の健全育成

①青少年の健全育成の推進

地域の子どもたちを健やかに育てるため、学校・家庭・地域が一体となって子どもたちの学びや成長を支える「地域学校協働活動」を推進。

②青少年育成活動の推進

次代を担う子どもたちの自主性や社会性、協調性を育むため「てしかが子どもクラブ」など、四季折々に町内外でさまざまな体験事業を展開。

生涯スポーツの推進

①住民皆スポーツの推進

ニュースポーツの普及や各種スポーツ教室の開催、総合型地域スポーツクラブ事業に対する支援など、スポーツに親しめる機会を拡充。

スポーツによる地域活性化を図るため、合宿誘致委員会と連携した誘致活動の展開や、各種競技大会の運営支援。

②スポーツ団体組織の充実

スポーツ活動の振興のため、スポーツ協会や文化・スポーツ少年団に対する支援を継続。

子育て支援の一環として、児童生徒に対するスポーツ振興助成金の助成率の引き上げ。

中学校部活動の地域移行に係る指導者の中体連引率資格取得経費に対する支援。

③スポーツ施設の整備と活用

快適に安心して利用できるよう修武館の空調設備や町営野球場の防球ネット、トイレなどを整備

住民が気軽にスポーツを楽しむ機会を提供するため学校開放事業対象施設を拡充。

プールの移転について、新たな施設の整備状況を注視しながら遺漏のないよう準備。

文化・芸術の継承

①文化活動の推進

文化の振興、発展のため、文化協会や総合文化祭に対する支援を継続。

子育て支援のため、児童生徒に対する文化振興助成金の助成率引き上げ。

②文化芸術環境の充実

弟子屈高校も含めた町内全児童生徒を対象に芸術鑑賞事業を実施。

優れた文化芸術に触れる機会の創出のため、芸術鑑賞バス運行事業の継続。

文化財の適切な

保全と活用

①地域の歴史の保全と活用

企画展や学芸員講座の開催に加え、てしかが郷土研究会との協働や各学校との博学連携の強化など、本町の歴史を後世に伝える取り組みを展開。

希少価値の高い資料の寄贈なども想定した取り扱いの検討。

②文化財の保護と伝承

「川湯ばやし」を54年振りとなる町文化財に指定。

町指定文化財や国指定の文化財などの貴重な財産について、保護、保存、伝承のため、関係機関や保存団体との連携支援。

③民族資料館の保全と活用

令和8年度の着工に向け、屈斜路コタンアイヌ民族資料館の改修事業に係る機能強化や課題解消に向けた詳細設計の実施。

北海道大学アイヌ・先住民研究センターとの連携による、屈斜路コタンを中心としたアイヌ文化の保存、伝承。

国際的な交流を糧にしたアイヌ文化の振興発展のため、台湾の原住民民族であるルカイ族との文化交流の実施。

教育委員会といたしましては、地域の皆さまとともに、子どもたちが未来に向かって生き生きと学び、成長できる環境を整えるために全力を尽くしてまいります。

あわせて、町民一人ひとりが豊かな人生を送るための学びの機会を提供してまいります。